



神金公民館だより

第165号

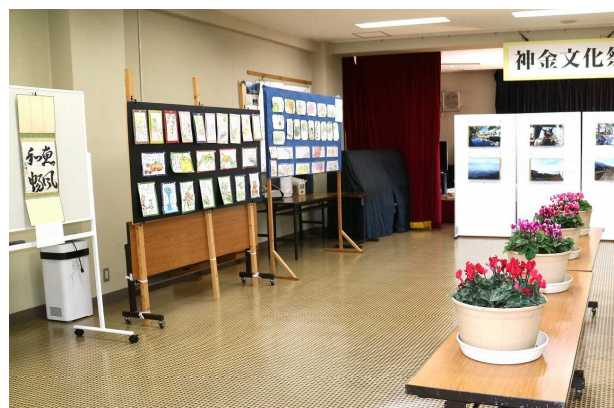
2023年
12月1日



10月29日から11月5日まで開催した「神金文化祭」には、多くの方々から作品を提供していただき、小学生から高齢者の方々までという幅広い年齢層の方々の作品を展示することができました。

展示期間中の観覧者名簿には、地域の方々だけでなく県外の方のお名前もあり、多くの方々に観覧していただくことができました。

来年も開催予定ですので、多くの地域の方々の作品が展示できるようにご協力をお願いいたします。



まだ使っていない方・使い慣れていない方のための
スマホ教室 12月8日(金)
19:00~21:00

中央公民館と連携して「スマホ教室・基礎講座」を開催します。専門のインストラクターが丁寧に指導します。スマートフォンを持っていない方には、貸出もできます。受講を希望する方は、4日(月)までに館長まで連絡をお願いします

神金トピックス&ニュース



11月3日、4年ぶりに「JAまつり感謝祭」が第一共選所で開催されました。

農産物の販売だけでなく、福引きや豪華賞品のくじ、餅投げなども行われ、地区内外から大勢の方々が会場を訪れ、大盛況となりました。



ダイコン収穫体験会

11月5日、「上条を活性化する会」主催のダイコン収穫体験会が開催されました。福蔵院駐車場では野菜類の販売も行われ、多くの方々が参加しました。



神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が、神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

青梅街道 四

神金地内を通る街道中特筆すべきものに番屋の関所がある。関所があったので地名を番屋と付けたのであろう。正式の名称は「萩原口留番所」というが、小田原筋にあって萩原と付けるのは変であるが、昔は神金・大藤一帯を総称して萩原といったのである。現在も天狗沢橋に流れる高芝川上流は萩原山である。因に一ノ瀬高橋全般に渡る東京都有林も萩原山の内である。

甲州に関所は二十四ヶ所あったが、規模はその必要度によって差があった。甲州街道にあった鶴瀬（大和村）の関所には本物の武士が勤務していたが、萩原口留番所は神金地内の上萩原村・上小田原村・下小田原村の中から選ばれた村役人が二人宛で勤務したのである。甲斐国志によると「上小田原村五日、下小田原村十日、上萩原村十五日之を守る」とあり、百姓が袴姿に腰に大小の刀を差し、武士らしくいかめしい顔をして、朝六時から夕方六時まで往来する人を取り締まったのである。番所は間口五間、奥行き二間にて道路上にあり、夜は門を閉じて通行はできなかつた。ほかに留置場があり九尺四方で四寸角の木材を組み合わせた嚴重のものであった。この関所はお役所、名主、菩提寺等の発行した通行手形がなければ通ることはできなかつた。江戸に徳川幕府がでて、元和二年（一六一六）甲州街道が開通したので、青梅街道は甲州街道より二里みじかく大菩薩越えは急坂ではあるが、急ぎの用事のある人や世をはばかる者にはよく利用された。関所には特に代官所からの重要な使命が二つあった。「出女と入鉄砲」といい、江戸から出る女と鉄砲を持った者が江戸に入るのを厳しく取り締まった。

寛永年間、世の乱れる兆があったので幕府は参勤交代の制度を新たに定めた。全国各藩の領主を江戸に詰めさせ奥方は国許に置き、定められた期間が過ぎれば奥方を江戸に領主を国許に交互にする人質政策であった。領主が国許に帰り謀反を企み奥方を江戸から逃すことを恐れ、女の出ることを厳しくしたのである。入鉄砲は飛道具ともいい治安上恐れられていたので、江戸府中に鉄砲が入ることを嚴重にしたためである。

*次ページに続く



神金の歴史

萩原口の番所に勤務した村々の役人は名誉でもあり幅を利かせていたそうである。又神金地内の村々にて関所を守ったため、助郷その他の諸役御免の特典もあったので村人は大変助かった。関所の開設は詳らかではないが、明暦三年（一六五七）の関係書類があるのでそれ以前からあったことは確かである。

現在、関所跡は道路の改修と石材の発掘によって昔の面影は全然認められないが、関所から重川までの矢来の跡が水路となって残されている。当時旅籠を経営して丹波・小菅や黒川金山へ物資の取り次ぎをした家が二軒、関所のすぐ上に柳屋、仲新居組に和泉屋の屋号で今も通用し栄えている。

二子山入口の国道から北へ約二十米の辺りから小田原橋下の矢崎保雄氏の下まで約三百米の旧街道と、途中の中村常福氏の上にある勝軍地蔵尊を知る人は少ない。現在のお社は間口二間奥行き二間半だが、お社の裏にある古い鬼瓦から判断すると前のお社は相当大きかったものである。昔は境内は広く大樹が鬱蒼としたお森であったが、大正二年の神金小学校新築の折に用材として切ってしまったのである。現在は一部が子供遊園地になっているが、踊石組のシンボルである巨人の足跡がある巨石があり、道祖神、石尊大権現、弁才天、その他の石仏がある。中村常福氏方に伝わる古文書に中村弾右衛門の名があるが、この人は黒川金山衆（武川衆・津金衆等と共に武力集団）の筆頭であった。中村の一統はこの地の草分けであり、この社を中心に二十戸余あったが、水害により北海度に移住したりして現在は十二戸が残っている。

昔、平安後期放光寺の開基である安田義定が小田原の福蔵院の地を館とし、二子山を砦とし、砂金を精錬したり、タタラという鍛冶場で武器を作った時があったが、踊石の中村と上條に住む十二余戸の中村は同じ流れをくむ一統であり、共に館を守り砦を守った先鋒と跡詰めではなかったかと想像される。甲府城の築城前是一条小山といい武田信義の嫡男一条忠頼の館であり、ここに勝軍地蔵があった。共に平家討伐に功を挙げ忠頼は駿河守に、義定は遠江守になったが、強大な力を持っていたため共に頼朝に謀殺された。

勝軍地蔵は当時流行した軍の神様であり安田義定の開基であると思う。

